や子守歌のメロディ モン(津波叙事詩)」と呼ばれる島の人々がその経験を「ナンド 水が引 ーにのせ、 たなら、

マエナの歌にのせて身を守る術を

る。

校の校庭に4拍子のリズムが響き始め

・の繰り返

ス島のオノナモロ・サト

ロット

たん、たん、

たんし

くの命を守ろうと取り組んでいる。 また起こり得る大災害から一人でも多 て防災の を率 教訓を抽出 験をつぶさに振り返

にも通い始めた高藤さん。地元の人々れるようになり、09年からはシムル島きのことだ。以来、毎年ニアス島を訪 に復興支援ボランティアにてニアス島を訪れたのは、 過去の災害の記憶がそれぞれの島をき込んだ丁寧な聞き取り調査を通 いる高藤洋子さんが初め アに参加したと

島の人々がその経験を「ナンドン・スシムル島とニアス島。しかし、シムルに見舞われ、多くの人々が亡くなった約100年前の1907年にも津波 を分けた理由を解き明かしていった。 にどの程度残っているかが両島の運命 (津波叙事詩)」と呼ばれる四行詩 「強い地

防災マエナを歌いながら楽しげに踊るニ アス島のルアハ・ボウソ小学校の子ども たち。過去の地震と津波で得た教訓と 身を守る術を歌にのせ、末永く受け継い

その結果、シムル島では20 話題にするのを避けてきたとい ニアス島では津波の前に

で伝えるなど、防災教育にも精力的に取 迎えた2014年からは、ナンドン・ス の記憶の風化を防ぐポイントだと実感し に日常生活に組み入れられるかが、 モンによって救われたシムル島の経験を ました」と高藤さんは振り返る。 スマトラ島沖地震から10年目の節目を 災害



小学校では避難訓練も行なわれ、子どもたちが応急処置の方 法を学ぶ



地震が発生したという想定で避難訓練を行い、一斉に机の下 に隠れる子どもたち。揺れが収まったらかばんで頭を保護しなが ら高いところに逃げる

地震のことを歌にしているのだ。 さぶりました」というニアス語の歌詞。 曲に合わせて踊りながら口ずさんで スマトラ島沖地震の3カ月後に起きた 来事でした」「大きな地震が地球を揺 「それは20

さんからシムル島の経験を聞き、災害ス島の各小学校で誕生している。高藤 うな防災歌を自分たちも創作し、 ス島の人々が、「ナンドン・スモンの の経験を受け継ぐ大切さを知ったニア たら教室から急いで逃げま ずれの歌にも「地震が起きたらまず いきたい」と立ち こうした、防災マエナ 上がったのだ。 がニア

を捕まえようと住民が我先に沖

避難が遅れたのだ。

「先人の経験談や、減災の知恵をいか

たん波が引いた海岸に魚が飛び跳ねるの

のカリキュラム化にも取り組んでいる。 教育局や防災局と連携して防災マエ 急連絡網の整備を進めたりしている他、 避難経路や指示系統を確認したり、学校教職員や父兄と共に災害発生時 との連携もスタ す」と高藤さんは狙いを説明する。 昨年8月からは同研究室とⅠ ニアス島内 0

「幼少期に12年間を過ごしたイン は第二の故郷です」と話す のられる。高藤さ

の防災意識を高めることができるの所の人に伝えてくれるので、確実に人 れば、子どもたちが帰宅後に両親 術が盛り込まれている。「小学校で教、を確認しましょう」といった身を守っ げましょう」「台所にいるときは火の元「海の近くは危険です。山へ向かって逃 いる。「小学校で教え や近

でいくための取り組みが広がっている

和光大学 バンバン・ルディアント研究室 津波の教訓を伝統舞踊で語り継ぐ

2004年のスマトラ島沖地震インド洋大津波によってインドネシア全土が甚大な被害に見舞われる中、 100年前の津波の経験を歌にのせて受け継ぐことで大きな被害を免れた島があった。

和光大学(東京都町田市)のバンバン・ルディアント研究室は、その島に学び、200km離れたニアス島でも 地元に根付く伝統舞踊で防災歌をつくって人々の防災意識を高めようと取り組んでいる。

ネシア。200 見舞われやす を出した北スマトラ州ニアス島と、かれた2つの島がある。多くの犠牲西海岸に位置していながら、明暗が 牲者数が7 震・津波では、 明暗を分けた過去の記憶の有無が このとき、同じようにスマ 日本と同様、 2004年のスマ 人にとどまったアチェ州 国全体で20万人以上 地震や津波、 トラ島沖地

- ラ島の

0)

分

風水害に

和光大学の高藤洋子さんは、毎年シムル島やニアス島を訪れ調査を重ねてきた。防災の



ニアス島の島民文化祭で子どもたちと 一緒に防災マエナを踊る北スマトラ州知

協力の担い手たち

事とグヌンシトリ市長

23 mundi October 2017 October 2017 **mundi** 22